

第6次高浜市総合計画推進会議（第6回） 会議録			
日時	平成29年3月13日（月）午後6時～7時		
場所	高浜市いきいき広場ホール	傍聴人数	3名
出席者	委員	中川幾郎、酒井康満、岩月義成、菅野洋一、清水恵子、高桑雄司、竹内一仁、田代峯子、内藤靖子、古橋知美、宮田克弥、神谷坂敏 (12名出席)	
	行政	市長 吉岡初浩 教育長 都築公人 総務部長 内田徹 市民総合窓口センター長 大岡英城 福祉部長 加藤一志 こども未来部長 中村孝徳 都市政策部長 深谷直弘 (7名出席)	
	事務局	企画部長 神谷美百合 総合政策グループ リーダー 野口恒夫 同 主 幹 榊原雅彦 同 主 事 稲垣翔太 同 主 事 岡田真吾 同 主 事 加古博紀 同 主 事 川合晃三 (7名出席)	

<p>次 第</p>	<p>1 あいさつ</p> <p>2 議題</p> <p>1) 平成29年度の推進会議に向けて</p> <p>2) 高浜市まち・ひと・しごと創生総合戦略について</p> <p>3) 後期基本計画の策定に向けて</p> <p>3 その他</p>
<p>資 料</p>	<p>資料1：第6次高浜市総合計画推進会議（第5回） 会議録</p> <p>資料2：平成29年度推進会議の進め方（案）について</p> <p>資料3：平成29年度 第6次高浜市総合計画推進会議 スケジュール（イメージ）</p> <p>資料4：平成28年度施策評価シート フォーマット（案）</p> <p>資料5：平成29年度「市民意識調査」「小・中学生アンケート」の実施について（案）</p> <p>資料6－1：高浜市まち・ひと・しごと創生総合戦略（改訂版）</p> <p>資料6－2：高浜版総合戦略の改訂について</p>

1. あいさつ

- 会 長： ・本日は、平成28年度推進会議締めくくりの回ということで、中期基本計画の最終年度となる29年度の推進会議をより円滑に進めていくため、このあと事務局よりお示しいただく会議の進め方と年間スケジュールの（案）に対して委員の皆さまよりご意見を賜りたい。
- ・また、平成30年度からスタートする後期基本計画の策定に向けての議題についても予定している。

2. 議題

1) 平成29年度の推進会議に向けて

- 会 長： ・では、議題1に入る。平成28年度推進会議を踏まえた29年度の会議の進め方（案）及び年間スケジュール（案）を中心に事務局から説明していただく。
- 行 政： ・資料2をご覧いただきたい。今年度第5回推進会議（推進会議からのコメントに対する行政の考え方と対応（案）についての意見交換の回）において、初めての試みとなる「ワールドカフェ」形式での会議を行い、その結果、委員の皆さま方から、好意的なご意見を多くいただくことができた。
- ・29年度の推進会議では、行政からの施策評価シートの内容の発表の回においても、ワールドカフェ形式で会議を行い、より意見交換が活発に行われるようにしていきたい。そして委員からいただいたコメントを、次年度のアクションプランや予算（案）に反映させていく。
- ・そうすることで、施策評価シートの発表を行う各G Lだけではなく、行政全体でこの推進会議を運営していける体制が築けると考えている。
- ・続いて、資料3をご覧いただきたい。こちらは29年度推進会議の年間スケジュール（案）となっており、開催回数としては、今年度から1回減の5回を予定している。
- ・今年度では、市民意識調査の確定値が出る6月頭に「市民意識調査の結果報告」の回を設けていたが、29年度については、報告書の配布をもってかえさせていただきたいと考えている。
- ・行政内部では、6月までに平成28年度の施策評価をとりまとめ、7月下旬と8月上旬に予定している第1回・第2回推進会議において、行政からの施策評価シートの発表を行いたいと考えている。
- ・先ほども申し上げたとおり、第1回・第2回推進会議ではワールドカフェ形式で会議を行い、委員と行政との意見交換がより活発に細部にわたる部分まで行えるようにしていきたい。その後の流れは今年度と同様となっている。
- ・以上が29年度の推進会議の進め方と年間スケジュール（案）についての説明となる。
- ・続く資料4・資料5には、行政が施策評価シートの発表を行う際のシートのフォーマット（案）及び市民意識調査・小中学生アンケートの実施概要についてまとめている。
- 会 長： ・ただいま資料2・資料3を中心に説明いただいたが、次年度の会議の進め方やスケジュールについて、委員の皆さまからご意見・ご質問等あればお願い

したい。

<意見・質問等なし>

会 長： ・それでは、事務局におかれましては、引き続き次年度に向けての作業を進めていただくようお願いしたい。

2) 高浜市まち・ひと・しごと創生総合戦略について

会 長： ・それでは、議題2に入る。事務局より説明をお願いしたい。

行 政： ・資料6-1及び資料6-2をご覧いただきたい。今回議題としてあげたのは、総合戦略の改訂・見直しに関することについてである。

- ・昨年度、推進会議でも議題としてお諮りいただき、平成28年3月に策定をした総合戦略であるが、総合計画同様、毎年見直しを行うものとしている。ただし、本市の総合戦略については、総合計画をベースとした総合戦略であるため、これまで委員の皆さまが総合計画に掲げる施策やアクションプランについてご意見いただいた内容をもとに行った総合計画の見直しの内容を反映したものを総合戦略の改訂にそのまま活かし、今回お示しする総合戦略改訂版の案としてまとめた。今回は資料6-2を使って説明をさせていただく。
- ・まず、総合戦略に掲げている成果指標の状況だが、平成28年中の出生数と人口の転入・転出の状況である。
- ・出生数については、年間500人を目標としていたが、平成28年中は455人であり、平成27年と比べるとほぼ横ばいとなっている。このことから、子どもがほしいとか、もう一人ほしいと思えるような施策が必要となってくるということがある。
- ・次に、人口の転入・転出に関する目標についてだが、この目標については、今回の見直しで改訂を予定しているが、策定時の目標としては「0～9歳」及び「25歳～39歳」の年代の転出超過を抑制し、均衡を保つとしている。
- ・そうした中で、平成28年中の人口の移動の状況を見てみると、0～59歳までのすべての年代でプラス、つまり人口増加の状況となっている。そのため、当初掲げていた目標は達成されているため、この状況を、「生産年齢人口が減少しないように維持していく」というように目標を改めたいと考えている。
- ・参考として外国人の数や転入元・転出先の状況も掲載している。高浜市の人口は平成28年中に716人増加しているが、そのうち約6割の439人が外国人となっており、人口全体に占める外国人の割合も5%から6%へと増加している。
- ・平成28年は特に外国人が多く転入してきている状況があった。そうしたことからこのような状況が続いていけば、外国人向けの対策がますます必要になってくることになる。詳しい要因分析については、今後進めていく。
- ・続いて資料右側が、今回の改訂により見直しを行った箇所の新旧対照表となる。
- ・一番上に見直しの方針を掲げている。総合戦略にある「基本的な考え方」や

「基本方針」といった根幹部分に関する見直しは今回行わない。今回見直しを行う部分としては、主に、具体的な施策である戦略プランを、総合計画に掲げるアクションプランの見直しと連動させ、廃止・変更等を行うというものである。

- ・具体的にはアクションプランの名称変更や、アクションプランから外れはしたが、事業としては継続しているもの、事業が統合されたものについて、現状にあった標記に見直しを行っている。
- ・ただ、戦略プラン以外でも、新旧対照表の一番上にある「指標②」については変更したいと考えている。また、その1つ下の創生戦略①「しあわせづくり計画で、一人ひとりの想いが実現できるまち」の部分で、今後、様々な分野で広がってくるICT化についての記述を追加している。これはすぐにICTを活用して何かを行っていくということではなく、今後、そうした動きをしようとした時に国からの交付金を申請できるよう大きな枠として記載を加えている。
- ・以上が、総合戦略の見直し・改訂案の説明となる。
- ・今後、若干の修正があるかもしれないが、4月のアクションプランの公表にあわせ、総合戦略の改訂版として公表をしていくこととなる。

会 長： ・ただいま事務局から説明のあった内容について、ご質問などがあればお願いしたい。

委 員： ・資料6-1の16ページの下から4行目にある、キーワードの「瓦」をカタカナ表記にしてはどうか。漢字ではなくカタカナにすることで、いろんな広がり・見方ができると思う。

行 政： ・ご意見のとおり修正させていただく。

委 員： ・資料6-1の20ページのICT化の部分で、「科学技術」を「情報技術」と修正してはどうか。ICTのCは、コミュニティやコミュニケーションの意味で使用される。

行 政： ・ご意見のとおり修正させていただく。

委 員： ・瓦産業は助けていかなければいけない産業だとは思いますが、いつまでも瓦に固執するのではなく、他のものにも目を向ける必要があるのではないかと。

行 政： ・現在展開されている高校生SBPの取組みのように、単なる屋根材だけではなく、これまでとは違った新しい可能性についても拾っていきたいという思いが込められている。

会 長： ・では、事務局におかれましては、ただいまのご意見を踏まえ、引き続き事務を進めていただくようお願いしたい。

3) 後期基本計画の策定に向けて

会 長： ・それでは、議題3に入る。事務局より説明をお願いしたい。

行 政： ・現在、第6次高浜市総合計画の中期基本計画が進行中であるが、平成30年度からは第6次総合計画の締めくくりとなる「後期基本計画」がスタートする。そして、来月には総合計画審議会を立ち上げるなど、本格的に策定作業が始まっていく。

- ・策定にあたっての基本的な考え方として、総合計画をみんなの計画としていくために、子どもから大人まで多くの市民の意見・提案を取り入れながら策定することとしている。また、第7次総合計画を見据え、多くの市民に参画いただくことで、まちづくりの担い手の裾野を広げていくこととしている。
 - ・現在は計画書の素案づくりの前段階として市民ヒアリング等を行いながら、市民の方が考える市の課題について洗い出しを行っている。そして、行政内部では、中期4年間の実績・見込を踏まえ、成果や見えてきた課題を、後期にどうつなげていくかといったことをまとめている。
 - ・本日は、委員の皆さま方が考える「後期期間中に重要となってくる市の施策やキーワード、後期に向けての課題」等を挙げていただき、後期に向けてのヒント等を得たいと考えている。
- 委員： ・高浜小学校整備事業が本格化してくると思うが、今後進めていく上では、もう少しいろんな方面から市民の方に理解していただくようなことを考えていく必要があるのではないかと。そして、どんどん市民の方に説明に伺うといったことを進めてほしい。
- 委員： ・一つは公共事業のこと。いろんな意見があるが、うまく進むように努力していただきたい。
- ・もう一つは子育てのこと。女性も外に出て働く時代になり、若いお母さんの「2人目ができたら保育園に預かってもらえなくなった。」という話と、私たち世代の方の「今のお母さんは、子育てしたくないばかりよ。」という両方の話を耳にして、今からの子育ての仕方に見方を変えていかなくてはいけないという感じがした。
- 委員： ・今年はずちの声がいろんなところでたくさん聞かれた年だと思う。子どもの関係で私が携わっている部分では、やはり子どものことで親が一生懸命になる姿を見ると、どちらが正しい・正しくないというのは付け難いなと思った。子どもに関わる施設運用の仕方というものが、今後すごく注目される場所だと思う。施設を運用する中で、子どもが今は増えているが、この先少なくなってきたときの運用の仕方などを見据えながら、皆さんに理解していただくということが大切だと感じている。
- 委員： ・長期的な視点に立ち、行政としての計画をきちっと示し、途中でぶれることなくやっていけばもう少しスムーズに進むのではないかと。思う。
- ・人口の問題。高浜市においても人口微増だけでも65歳以上が増えていく。認知症で免許返納という問題があるが、そういった方たちの足の問題を行政としてどうするのか、インフラもある程度整備しないといけないんだろうかといったことがある。認知症の問題などを含め、人口増と絡めてやっていけたらいいと思う。
- ・計画が市民に身近であったらいいと思う。中期の委員として携わってきたが、こういった評価がしっかりPDCAに活かされているのかどうかということが頭に引っ掛かっている。きちっと現状把握・原因分析を行った上で、PDCAを回しながら目標に向かっていけばいいと思う。いろんな市民の方に参画してもらいながら、計画を作り上げていくことが必要である。
- 委員： ・教育の要綱も変わり、高校受験の体制も変わるため、ぜひ教育基本構想の改

定に着手していただきたい。

- ・ICTの話があったが、そういった機材を使って学校の子どもの教育に役立てたい。ICTといっても結局はある意味設備投資になるため、うまく予算をとっていただき、ぜひそういう機材を教育に役立ててほしい。さらに今テレビでも放映されているが、例えば教育や防災でVRなどをうまく抱き合わせれば、効果的に費用が捻出できるのではないかと思う。

委員：・「子ども」がキーワードだと思う。公共施設しかり、文化しかり、施策全てに子どもが関わることによって、いろいろなものが見えてくると思う。高浜市の未来を担う子どものことをしっかり盛り込んだ基本計画を立てていけばよい。子どものためにと言うのは簡単だが、公共設備の部分で市長がおっしゃっているように、はっきりともの言っていくことが大事だと思う。我々市民も勉強しないといけないが、市の職員全員がその部分を理解して、市民の人たちに説明ができるようなそういった基本計画ができれば理想である。

委員：・私もキーワードは「子ども」だと思う。子ども食堂が私の地区で始まるが、本当に救わなきゃいけない子どもに来てほしい。親御さん向けに「こんなサービスとかこんなものがありますよ」といろんな企画をしても、来てほしい親御さんに来てもらえないため、情報の伝達の仕方も考えていきたい。若い世代の人がたくさん越してみえたので、その人たちが高浜を好きになって、高浜に定住してもらって、一緒に地域を盛り上げていけたらいいと思う。住みやすい市にするため、子どもが安心して育てるような、かわいそうな子どもを作らないようなまちづくりができればいいと思う。

委員：・高浜小学校整備事業もスタートしていくが、今後こうなっていくということが市民の皆さんは分かっている時期であるため、市民と行政がこうしていこうという案を出し合いながら進めていってもらいたい。吉浜地区は開発がものすごく進んでいるが、必ずそこには小学生がいる。子どもたちをうまく囲っていく、仲間に入れてやっていくという取組みを、ぶれずに推し進めてほしい。

委員：・私は高浜商店振興会といういわゆる商店街の会長をやっているが、昔はシャッター通りがあったが、今ではシャッターもなくなり、みんな住宅に変わり、今さらシャッター通りを活性化させることはできなくなってしまっている。高浜を楽しいまちにするために、にぎわいを創造できるといいと思う。空いている店舗を何とかできないかなとも思う。楽しそうな新しい商売が入りやすくなるような仕掛けができないだろうかと思っており、「まちのにぎわいの創出」が私が考えるキーワードである。

委員：・高浜市は小さなまちで大きな産業も何もなく、将来像を見つけるのは難しいが、人はたくさんいる。出生率を増やすという目標があるが、結婚していない人が多くいる。結婚していない人をどうするかという話も、やはり市として考える必要があると思う。人をいかに活用してこれからの発展につなげるかというのを考えていかなければいけない。先ほどから子どもとか人の話がでてきて、やはり皆さん同じような考えを持っていることがわかった。小さなまちをいかに発展させていくかを考えていただきたい。

委員：・子どもへの投資が今後ますます増えるといった中で、公共施設にかかる費用

を子どもたちのところへ回したい。そこにはもう一つあり、超高齢社会であるため、社会保障費は必ず増加してくる。その中で子どもまで回すということになれば、減らせるところは公共施設しかないという着眼点がある。公共施設に関してはいろんなご意見をいただきましたが、円滑に進むよう市民の皆さまへのPR等を進めていきたい。

- ・商店街に代わる新しいにぎわいと産業の関係は、市の財政を考えて並行してやっていく。後期では、もう少しポイントを絞っていい事業ができたらと思う。

会長： ・後期基本計画を作るときには、政策のメリハリをもう少し付けていくべきではないか。計画というのは大体役所の縦割りでできているが、できたら市民の側から見たときの生活実感に近いようなグルーピングや章立て編成に変えていけないかと思った。そうすると、当然役所の部局間の縦の壁を越えていかなければならず、部局同士が連動・連携しないといけない事業も出てくる。これについては〇〇課と〇〇課と〇〇課の3課が関係します・協働しますみたいなそういった計画であっていいと思う。

- ・ICTに関するご意見は、情報教育を小・中学校で導入したらどうかということだと思う。これは学校教育の場面だけで有効なわけではなく、子どもたちを防犯上で見守ることもつながることだろうし、将来のICT教育のレベルが上がってくることにもなる。未来に向けた投資効果が高いとか、政策的な複合効果が高いと思われるものを選抜して優先順位を上げていくといった見せ方があるのではないかと思う。もちろん、すぐにやらないと手遅れになりかねないという対策事業はトップに掲げるべきである。その次に来るのが複合効果の高いもの。3つ目に来るのが、複数部局が連携してやっていく事業というように順番を考えてみたらどうかと思う。これからはできるだけ縦割りの壁を越えて、総合力でやっていく時代であると示していくべきである。小学校の整備事業はまさしくこの複合効果を狙っているわけであり、そういう時代に移っているということ、住民にも行政職員にもわかってもらったらどうかと思う。

- ・先ほど社会減の話が出た。社会減の大きい自治体のリストがある。その上位にくる自治体で私が直感的に感じたのは、文化政策が弱いということ。文化施策は教育施策と連動してくる。そこに投資を怠ったまち、手遅れにしてしまったまちではないかという仮説を立てている。高浜も教育都市である力を持っており、それをバックアップする形の文化施策に力を入れている。

- ・出た意見をまとめると、公共施設の統廃合もしくは建て替え等する場合は、いかに住民の意見を多様に吸収し、プロセスに活かしていくかということがキーではないかというご指摘を受けたと思う。タウンミーティングやアンケート、当事者へのインタビューなど様々な手法を活用すれば、参画・協働の政策プロセスへの意見吸収が可能かと思う。しかし、賛成・反対というのはいつの時代もあるわけで、どこかの時点で政策判断をしないといけない。ただ、プロセスだけはしっかり踏むということが重要となる。

- ・もう一つは子ども・子育てあるいは若い世代が、これからのまちにとって重点施策の肝になってくるという気がする。しかし、いわゆる高齢者の方々に

対する政策のレベルが落ちることがないようにという歯止めはかけておかねばならない。そのあたりをこれからどうバランスを取っていくかが大変重要な課題ではある。とはいいつつ、子どもへの投資と高齢者への投資とでは比率が全く違う。子どもへの投資にはそれほどお金はかからない。工夫すればものすごく効果が出る。そういう面で子どもということを頭の片隅から外してはいけないという気がした。

- ・結婚していない人をどうするかという話だが、非正規労働になっている若者がものすごく増えている。そういう人たちが住んでいる可能性も高い。その人たちに対してどういうバックアップをしていけばいいかということは一つの政策課題である。これは国の課題ではないのか、労働問題になれば都道府県じゃないのかという欠落があるかもしれないが、市としてやれることは何なのかということはやはり考えないといけない。同じように商店街振興についても、商工行政というのは市があまりお金持っていないため、力を入れてもなかなか力が出ないという弱みはあるが、それなりに市としてできることはあるはずなので、それも考えねばならない。

3. その他

会 長： ・以上で、全ての議事は終了したので、その他に入る。事務局に一度お返しする。

行 政： <公共施設シンポジウムのご案内>

行 政： ・続いて、平成29年度第1回～第3回推進会議までの日程を確定させておきたい。

<日程調整の結果>

【第1回】平成29年7月24日（月）午後6時または午後7時から

【第2回】平成29年8月1日（火）午後7時から

【第3回】再調整

会 長： ・本日、市長がお見えになっていますので、今年度最後の推進会議ということで、次年度に向けての思い・抱負など、一言お言葉をいただきたい。

市 長： ・後期に向けていろんなご意見を伺う中で、子どもの話が多く出てきたなと感じた。私も29年度の予算を作るにあたって、教育施設については重点的にやっていかななくてはならないという思いがある。ところが、子どもという視点で見たときに、教育施設は必ず必要だが、モノで話すのは私はあまり好きではない。子どもにとってこんなものがあるのではないかと親が思うかもしれない。何となく子どもという視点で見たときに、何か違う話に行ってしまうことが非常に心配である。今まではあまり学童保育で拡張をしていない。（※29年度は吉浜地区において拡張を行う。）できるだけグラウンドを開放して自由に遊んでくれと言っている。子どもにとって最も必要なのは、子ども同士がいかに関係づくりができるか、地域による子育て力がどのくらいあるか、これで子どもの生まれる数は変わってくると思う。家庭が分離されて一つひとつ小さな家庭の単位になってきていることや、雇用の問題、就労の問題などいろいろあると思うが、地域の力があれば、子どもは生まれていけると思う。我々が子どもの頃は、隣の子どもを預かったり、会社の事務所

で従業員の子どもを預かることもあった。それは今では難しいかもしれないが、そんなことは当たり前にあった。それをずっと税金で行政がカバーして広げていくとなると、なかなか難しい。ただ目標立ててやっていく中では、そういうことしかできないかなとも思う。子どもの視点は本当に重要である。ただその中に、モノ・カネで語れるような話はできるだけしていきたくないというのが私の思いである。

会 長： ・では、これをもちまして、第6回総合計画推進会議を終了する。